

技術・家庭科部会

研究主題

活用力を高める授業の構築

1 主題について

昨年10月に、能代山本地区を会場に東北技術・家庭科教育研究大会が行われた。大きな大会を終え、秋田県技術・家庭科研究会では今年度から新たに、身に付けた知識や技術を「活用する」ことに着目した研究テーマ設定を行った。本部会では、秋田県技術・家庭科研究会の研究テーマを採用して研究を進めた。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月26日	第2回総合研究会 授業研究会（第一中学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成24年10月26日（金）
- ・会 場 第一中学校
- ・題材名 生活に役立つものをつくろう
- ・授業者 須合 康

① 授業者から

- ・本時の学習内容は、今年度新たに学習指導要領に加わった「評価と活用」に関する内容である。本来、題材の終わりに行うものであるが、研究会という機会に行うこととした。
- ・文科省教科調査官の講演の中で、「評価と活用」の授業を行う際に、①社会的側面、②経済的側面、③環境的側面の3つの観点から生徒に考えさせるべきである、という指導があったことから、3つの観点を意識して授業を展開した。
- ・生徒には、ペットボトルキャップ回収は、大館市特有のものであることに着目させ、成果と課題を考えさせるようにした。
- ・環境的側面について着目し、そこから→経済的側面→社会的側面へと盛り上げていければよかったがなかなかうまくいかなかった。
- ・評価問題の実施は、一中ですべての教科で行っている研究である。終末のまとめのところがうまくまとまらなかったと感じる。

② 協 議

- ・導入は写真ではなく、実物で行いたい。
- ・生徒が配付された資料から必要な情報を読み取ったり、線を引いたりペンで強調したりする学習活動が、技術・家庭科の授業では無かったと思うので新鮮であった。
- ・「持続可能な社会」という言葉が、今日初めて授業で出した言葉であれば、子どもたちにとってすごく難しいように感じた。また、「持続可能な社会」を作ることが本時の学習課題に対する答えなのではないか。
- ・授業の終末で評価問題を行う授業のパターンが、本教科にふさわしいか疑問が残った。
- ・実際にリサイクルされている工場などを、子どもたちは見学した経験はあるのか。

- 小学校5年生の社会科見学で、秋田ウッドを訪れている。
- ・班で話し合い、全体で共有されたことが、個に返る場面があればよかった。また、全体で練り合う場面があればよかった。
 - ・子どもたちからは、解決策として、二酸化炭素の削減という部分だけが出され、取りだたされたように思う。先生としてはどのような答えを準備しているべきだったのだろうか。
- リサイクル工場の立地条件、運搬にかかるコスト、化石燃料の消費、自分の生活の見直し（必要のないものは買わない）などが考えられる。
- ・4人グループでの話し合いを行う際のルールを決めていくべきだと思う。1～4までの番号、司会者や発表者、役割を固定するのかローテーションさせるのか。
 - ・評価基準のA達成を示すことはどのような効果があるか。
- 学校の研究として、A達成を示すことにしている。Aに到達する力がある生徒が、B達成で終わってしまう、などのことが避けられるのではないか。
- ・今日出された課題はリサイクルを進めていく上での課題であって、リサイクルそのものは必要であることをしっかり押さえたい。リサイクルを進めていく上での課題はあるが、ゼロから作るよりも燃料は使われていない。

(2) 指導助言（八代 英樹 指導主事）

- ・教室に入ってきた時、生徒のあいさつが立派であった。授業に臨む態度も真剣であった。反応の良い生徒たちを上手に利用して、テンポ良く授業が展開された。
- ・今日の授業に必要なことについて、前時のことを取り上げながら、課題提示までうまく進めることができた。
- ・大変見やすく学習の流れが分かる板書であった。また、学習シートも考えるのに必要な情報があり、資料の扱い方に関する指導も丁寧であった。
- ・グループでの話し合いは、役割を決めて行うのは効果的であると思う。また、交代制にすることも様々な役割を経験することになる。
- ・生徒から出された意見を基にして、うまくまとめにつなげることができた。うまくいっている大館のリサイクル法をさらに浸透させていこうという考え方もあるのではないか。
- ・家庭分野でもリサイクルに関する内容が扱われる。家庭分野では、家庭での「一番効果的なリサイクルの仕方とは」など、リサイクルの方法が扱われる。技術分野ではリサイクルありきではなく、リサイクルすることのメリットと問題点を明確にし、技術的な視点からどうすべきか考えさせる必要がある。
- ・「評価と活用」について扱う際には、「役割と影響」「効果と課題」など、光と影について明確にし、それを踏まえた上で自分はどうするのか、という判断させることが大事である。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・学習指導要領に加わった「技術の評価と活用」に関する授業展開例を、会員で共有することができたこと

(2) 課題

- ・「技術の評価と活用」に関する内容について、光と影を明確にした授業展開を積み重ねていくこと



【リサイクルを進める上での課題について考える生徒】